特集

変わるまちなか

佐賀市呉服元町 この10年

全国の地方都市で郊外型商業施設の人気が続く一方、これまで苦戦を強いられてきた中心市街地の一部で、緩やかなまちなか回帰の動きが広がっています。空き店舗に入居した個性的な新店と長年頑張ってこられた老舗との相乗効果で、にぎわいを取り戻しつつあるところもあります。今回の特集では、ここ10年あまりで変貌を遂げてきた佐賀市呉服元町に注目するとともに、関係者にまちづくりへの思いを聞きました。

「実はいい感じになってきています。MOTEMOTEで取り上げてみたら」―。今回の呉服元町の取材は、佐賀市中心部の空き店舗解消に一役買っている「まちなか不動産」の創業時に社長を務めた草場廣明さんからのアドバイスがきっかけです。中心市街地のエスプラッツ3階にある佐賀新聞文化センターに勤務するようになって1年あまり。お昼時などに近くを歩くと、個性あふれるお店が地域に根を張って奮闘されていることを実感します。

年配の方は覚えていらっしゃることでしょう。呉服元町には以前、お隣の白山名店街と同じようにアーケードがありました。ただ、バブル崩壊後の景気低迷や郊外型商業施設進出のあおりを受けて閉店が相次ぎ、雨漏りが目立っていたアーケードも2009年に撤去されました。その時、約200mに及ぶ歩行者専用道路に車を通す案も持ち上がったそうですが、それではいけないと関係者で踏みとどまったそうです。

いま呉服元町の通りには、車の通行を心配することなく、ベビーカーを押して散策する家族連れの姿も目立ちます。まちなかにゆったりとしたい雰囲気が生まれているのは、その時の好判断があったからとも言えそうです。また、メーン通りにつながる通りに婦人服などを扱う「news」やコワーキングスペースがオープンするなど、まちは広がりを見せています。

メーン通り沿いの複合ビル「佐賀新聞呉服町パーク」を管理している佐賀新聞不動産など地元企業の参画もあり、今後まちなかの空き店舗解消に向けた動きはさらに強まっていきそうです。

呉服元町のこの10年あまりを振り返ってみると、緩やかながらまちのにぎわい創出に向けた動きが着実に続いてきたことが分かります。

まちなかの拠点 シェアオフィスを運営

COTOCO 215

オープン10年目の「COTOCO215」。シェアオフィスなどがある

「COTOCO215は呉服元町にオープンして10年目です。シェアオフィスやコワーキングスペースがあり、入居者同士の交流から新たなビジネスチャンスも生まれています」。施設の運営を担当する徳島貴子さんは、その魅力をこう説明します。

手掛けたのは、佐賀市出身の建築家・西村浩さんです。東京を中心に活躍されていますが、ふるさとのにぎわい創出の一助になればと2014年、自身の設計事務所の佐賀事務所を兼ねる形でCOTOCO215を開設しました。佐賀県が誘致したNPOの佐賀事務所や、企業や起業家の拠点として利用されています。ここで育ち、事業拡大のため新天地に飛び立っていった企業もあるそうです。

お隣の4階建てビル「ON THE ROOF」の管理も委託されています。こちらは築約50年で長らく空き家状態だったものをリノベーションして2017年に貸し出しました。いまは2階にフォトスタジオ、3階にダンススタジオが入り、4階は個室のシェアオフィスとなっています。このほか、毎月1回開催の「呉服元町ストリートマーケット」を主催するなどイベントにも力を入れています。

COTOCO 215
住 / 佐賀市呉服元町 2-15
COTOCO215
電 / 0952-37-5883

多彩なイベント 広がる交流の輪

わいわい!! コンテナ2

呉服元町の約200mに及ぶ歩行者専用道路の北端にはCOTOCO215があり、反対の南端には、まちづくり機構ユマニテさがが運営する「わいわい!!コンテナ2」があります。社会実験を経て2012年6月にオープンし、まる11年になります。

「遊びに来る子どもの中には、私たちがここに住んでいると思っている子もいます。実際、家よりここで長い時間を過ごしていますし、皆さんにもおうちにいる感覚でくつろいでもらえたら」。スタッフの江里口里紗さんはこう話します。

芝生広場の中には、読書が楽しめるコンテナや、文化教室などに利用できる交流コンテナ、物販や展示会ができるチャレンジコンテナがあり、「空き地リビング」として親しまれています。江里口さんらに会いに頻繁に訪れる人もいらっしゃるそうです。

どまんなかと銘打ったイベントなど多彩に展開しています。スタッフになって7年目ですが、「以前より活気は戻ってきています」と江里口さん。周辺の店主さんらの「まちをよくしたい」という強い思いを感じているそうです。

「空き地リビング」として親しまれている「わいわい!!コンテナ2」

わいわい!! コンテナ2
住 / 佐賀市呉服元町2
営 /10:00 -18:00
月曜定休
電 / 090-9586-9445

コンテナの中にはゾンビランドサガのコーナーも設けられている

パリのカフェのような集いの場に

カフェ・ブラッサンス

「よく10年続いたなあ、というのが実感です。いろんなお客さんと知り合えたことが財産です」。呉服元町の通り沿いに「カフェ・ブラッサンス」を構えて11年目になる園田寛さんは、感慨深げにこう話します。

園田さんは佐賀新聞社の元論説委員です。文化部の記者として長年取材に携わり、たくさんの友人ができました。「まちなかに皆さんが集える場があれば」。定年退職を機に何か新しいことに挑戦したいという思いもあり、2012年、656広場すぐ横でカフェを始めました。お店は建物の2階ですが、大きな窓があって明るいことや、目の前の国保会館の植え込みの緑が見えることも決め手になったそうです。妻摩智子さんと営むお店には、音楽、絵画、書道などを愛する人たちが通ってこられます。ピカソら芸術家が集った1900年代前半のフランス・パリのカフェのような文化交流の場です。

オープン当初から毎週火曜、金曜はランチタイム音楽会を開いています。菖蒲共栄さんのピアノ、園田さんのチェロを基本に、ギター、ハーモニカ、オカリナなどが加わることもあります。絵画のグループ展や個展のほか、毎月第1火曜は書道教室、第4火曜は共通の本を読んで感想を語り合う読書会も開かれています。お店は文化の薫りに包まれています。

ランチタイム音楽会で演奏する園田寛さんと菖蒲共栄さん＝「カフェ・ブラッサンス」

カフェ・ブラッサンス

住 / 佐賀市呉服元町 2-24
営 /11：30 - 15：00　日曜・月曜定休
電 / 0952-97-9378

ママさん作家の活躍の場

SUSIE スージー

「いま作家さんは45人ほど。ほとんどが県内在住の皆さんです」。ママさんたちのハンドメイド雑貨が幅広くそろっている「SUSIE」のストアマネージャー、田中藍さんはお店の魅力をこうアピールします。

SUSIEは2016年、呉服元町の一角にオープンしました。幼稚園のママ友5人でハンドメイドを楽しんでいたのがきっかけで、うち田中さんら2人が知人の支援を受けてお店を始めました。ママたちが活躍できる場にしたいというのがコンセプトで、2019年にメーン通り沿いの現在地に移転してきました。ベビー用品、アクセサリー、布小物、麻編み雑貨、本革細工などがずらりと並んでいます。女性のお客様が多いですが、夫婦一緒だったり、奥さんへのプレゼントを買いに来られる男性もいらっしゃるそうです。

田中さんは、長年営業されている近隣のお店の皆さんに感謝しています。「お店を出した最初からすごいウエルカムでした。子どもを連れて出勤していましたが、声を掛けてくださったり、遊んでくださったり…。本当に感謝しかありません」。イベントをやるときも声を掛けてくださいます。「呉服元町をもっと知ってほしい。このまちのためになれば」。少しでも恩返しができればと思っています。

来店を呼び掛ける田中藍さん（右）ら＝「SUSIE」

SUSIE

住 / 佐賀市呉服元町 2-22
営 /10：00 - 16：00　不定休
電 / 080-3975-1706

熱意に囲まれ、一緒に心を躍らせる場所に

shironeri シロネリ

「オープンから8月でまる1年です。より魅力的なお店にするにはどうすればよいのか。ちょうどいま思案中です」。こう口をそろえるのは、656広場前の築100年を超す旧家をリノベーションし、体験をテーマにしたカフェ「shironeri」（シロネリ）を営んでいる蒲原ひかりさんと遠藤美帆さんです。

お店では、蒲原さんが飲食メニュー、遠藤さんが雑貨を主に担当。2人はお客様を迎えるにあたり、熱意に囲まれ、一緒に心を躍らせる体験ができる場所にしたいと思っています。

いまのイチ押しメニューは塩麹スコーン（1個280円）です。卵、バターを使用せず、自家製の塩麹を練り込んだ自信作ですが、お店オリジナルのブレンドコーヒーとともに勧めています。「じっくり味わい、おいしかったという体験を持ち帰っていただければ」と2人。家事道具など幅広くそろえていますが、その一つ一つの使い方、作り手の思いなど商品の背景にあるものを伝えていきたいと考えています。

伝統ある和風建築をベースにした店内では緩やかに時間が流れ、気持ちも落ち着きます。「イベントも積極的に実施して体験価値を高める場所づくりをしていきます」と意欲的です。

「shironeri」で料理を担当している蒲原ひかりさん

イチ押しの塩麹スコーン（1個280円）

shironeri

住 / 佐賀市呉服元町 7-4
　まつや MeSH　shironeri
電 /070-8803-8500
営 /11：00 ～17：00 (L.O16:30)
不定休
IG / shironericafe_unstandardlife

佐賀大とソーシャルビジネスを共同研究

コンピュータ技研佐賀オフィス

「ここの雰囲気が好きです。目の前に広場があって、学生たちが自転車で通り過ぎていく。人が出会える場だと感じています」。656広場前の「まつやMeSH」に入居しているコンピュータ技研佐賀オフィスの責任者、飯野竜矢さんは、呉服元町の魅力をこう表現します。

同社は、大阪市に本社を構える企業です。官公庁や大手企業と連携し、システム構築などを手掛けています。佐賀市とのご縁は2年前。佐賀市の企業誘致担当者から本社に寄せられた一本の電話がきっかけになったそうです。「嬉野や唐津なども紹介されましたが、『こういうのはご縁だよね』ということで、ここに決まりました」と飯野さん。2022年10月に入居し、この3月末にオフィスの改装を終えています。

佐賀県内では佐賀大学キャリアセンターと社会問題解決に向けたソーシャルビジネスを共同研究しています。大卒者の早期離職・転職が社会問題になる中、学生時代からもっと社会に触れてもらおうという取り組みで、キャリア教育に関する大学の講義も担っているそうです。

「社長の知人である北極冒険家・荻田泰永さんの本屋の出張所をここに開く計画も進めています」と飯野さん。地域の皆さんに集ってもらうことも目指します。

「まちの雰囲気のよさが進出の決め手になりました」と話す飯野竜矢さん（前）＝コンピュータ技研佐賀オフィス

コンピュータ技研佐賀オフィス

住 / 佐賀市呉服元町 7-4
　まつや MeSH

米国西海岸を思わせるおしゃれな外観

ステーキ＆ハンバーグ「ＥＢＩＳＵ」

米国西海岸を思わせる外観が目を引く「ＥＢＩＳＵ」

６５６広場の南側には、この７月でオープン２年を迎えるステーキ＆ハンバーグ「ＥＢＩＳＵ」があります。アメリカ西海岸を思わせるおしゃれな外観が目を引きます。

代表の松尾延寿さんは焼き肉店で修業。独立開業にあたり、子どもの頃からよく知る呉服元町をその地に選びましたが、それは「若者が行ける店が少ない。愛着のあるまちに活気を呼び込むことができれば」との思いもあったからです。

ＥＢＩＳＵステーキ、ハラミステーキ、ＥＢＩＳＵ黒毛和牛ハンバーグなどが人気です。その日のおなかの具合で４オンス（１１２ｇ）から２ポンド（９００ｇ）まで好きなサイズを選ぶことができます。ランチタイムは年配の方の来店も目立ち、夜は２ポンド（約９００ｇ）のものをシェアして食べるグループも多いそうです。２階のテラス席では、大人数でわいわいやりながら本格的なバーベキューを味わうこともできます。イベントやアフターコロナの雰囲気で人通りは増えてきています。松尾さんは「新たな風を吹かせたい」と張り切っています。

人気のハラミステーキ

ステーキ＆ハンバーグ「ＥＢＩＳＵ」

住 / 佐賀市呉服元町 1-5　営 /11：30 - 15：00、17：00 - 22：00

日曜はランチ営業のみ　月曜定休　電 / 0952-28-0208

まちなかのにぎわいを創出するにはどうすべきか。まちづくり機構ユマニテさがの事務局長などを歴任し、「まちなか不動産」の創業時に社長を務めた草場廣明さんに話を聞きました。

草場さんが思う「まちづくり」について教えてください。

――まちづくりは「エリア価値の再構築」だと思っています。いま呉服元町で実践されているわけですが、建て替えなど大きなお金をかけるのでなく、小規模な再投資を集中かつ継続的にやることが大切です。まだまだ新築主義が強いですが、ストックがあるのなら、それを生かすことを考えていかなければなりません。

まちづくりの成功の鍵は何でしょうか。

――お金はもちろん必要ですが、大事なのは誰がやるのかということ。いわば「人」です。仕事を続ける中でそれを実感しています。基本はこれを貫いていくことだと思います。

行政に求められることは。

――いまの社会環境でいうと、人口減少、少子高齢化の問題があります。都市としてはある程度、人口集積がないと行政コストが高くなってしまいます。コンパクトシティの実現は必須です。人が集まれば、情報とアイデアを交換する場になります。若者が都市に集まるのは、都市の機能があるからにほかなりません。

最後に一言お願いします。

――やみくもにまちづくりと言っても前進しません。あるべきまちの未来の姿を描くことが大切です。それが現状とどれだけ距離があるのか。それを知り、それを埋める道筋をつくっていかねばなりません。

草場廣明さん

楽しさいっぱい

コンテナまるしぇ・ストリートマーケットを散策してみました

「ぜひ遊びに来て」と笑顔で話す（左から）江里口里紗さん、田中藍さん、徳島貴子さん

呉服元町の人気イベントに「コンテナまるしぇ」と「呉服元町ストリートマーケット」があります。ほぼ同時に毎月１回実施していますが、歩行者専用道路や６５６広場に多彩なお店が並ぶとあって、いつも大勢の人でにぎわっています。台風がそれて青空が広がった６月３日、楽しさいっぱいの会場を散策してみました。

まさにイベント日和です。メーン通りや６５６広場などにたくさんの店が並んでいます。早速、人だかり　ができているところを見つけました。高志館高校食品流通科のお店です。

生徒に尋ねると、ふわふわもちもちの「チーズボール」（５個入り１００円）が一番人気とのこと。生徒たちの受け答えが気持ちよく、チーズボールのほか、合わせみそやクッキー、マフィンを買いました。これだけ買って１０００円はとてもお得です。

すぐ近くで色鮮やかな花を見つけました。千喜田花卉園（唐津市厳木町）が手掛けられている染め菊です。担当の千喜田樹里さんは「昨年から力を入れている独自ブランドです。皆さんに知ってもらえれば」と話していました。家族へのプレゼントでしょうか。女子高校生が購入し、うれしそうに抱えて帰っていきました。

もちろん、新鮮な農産物のお店もあります。新タマネギやオクラなどが格安で販売され、２人組の女性が「わぁ、きれい」「安い」と歓声を上げていました。

来場の理由はさまざまです。わいわい!!コンテナ２には、人気アニメ「ゾンビランドサガ」のファン「ゾンビィさん」が何人も来られていました。コンテナが作品に登場したことで、聖地巡礼の行き先の一つになっているそうです。神奈川県の30代女性は「あすの鹿島ガタリンピックに合わせて２泊３日で来ました。佐賀の人たちは優しい」と感激されていました。

運営を担当しているわいわい!!コンテナ２の江里口里紗さんらスタッフの皆さんは、そろいの紺色のＴシャツを身にまとい、会場内を走り回りながら、来場した皆さんと楽しげに話されていました。やっぱり、人と人との交流はいいなと思いました。

青空の下、散策を楽しむ人たち

カラフルなメキシコ雑貨が人気を集めていた

染め菊をＰＲする千喜田樹里さん

手作りの食品を販売する高志館高のみなさん

［記事：杉原孝幸　デザイン：蒲原貴子］